



2025年9月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年4月30日

上場会社名 株式会社アズーム 上場取引所 東
コード番号 3496 URL <https://azoom.jp/>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）菅田洋司
問合せ先責任者 （役職名）取締役経営管理本部長 （氏名）馬場涼平 TEL 03-5365-1235
半期報告書提出予定日 2025年5月9日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家及びアナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年9月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年10月1日～2025年3月31日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年9月期中間期	6,319	28.5	1,155	37.6	1,155	37.8	760	30.1
2024年9月期中間期	4,918	27.3	840	41.3	838	41.2	584	45.3

（注）包括利益 2025年9月期中間期 759百万円（30.3%） 2024年9月期中間期 582百万円（45.8%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年9月期中間期	128.70	127.02
2024年9月期中間期	99.09	97.63

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年9月期中間期	6,242	4,362	69.5
2024年9月期	5,554	3,749	67.1

（参考）自己資本 2025年9月期中間期 4,340百万円 2024年9月期 3,727百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年9月期	—	0.00	—	25.00	25.00
2025年9月期	—	0.00			
2025年9月期（予想）			—	40.00	40.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年9月期の連結業績予想（2024年10月1日～2025年9月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,500	18.6	2,500	36.7	2,490	36.3	1,619	25.7	274.01

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 - ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ② ①以外の会計方針の変更：無
 - ③ 会計上の見積りの変更：無
 - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年9月期中間期	6,030,400株	2024年9月期中間期	6,021,600株
② 期末自己株式数	2025年9月期中間期	118,276株	2024年9月期中間期	118,276株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年9月期中間期	5,909,770株	2024年9月期中間期	5,900,804株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(重要な後発事象)	9

1. 経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日において判断したものであります。

（1）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における我が国の経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、一部足踏みが残るものの緩やかに景気が持ち直していくことが期待されております。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっており、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響や、通商政策などアメリカの政策動向による影響などが当社グループに与える影響は不透明であり、今後も引き続き注視し、適切な対応を講じてまいります。

当社グループの経営環境としましては、遊休資産活用事業に主として関連する駐車場業界において、インターネットを活用した月極駐車場の紹介依頼需要は増加しており、オフィスビルや分譲マンション等における駐車場空き区画の収益化に対する需要も依然として拡大しております。さらに、従来は店舗型の不動産仲介業者にて月極駐車場を探していたユーザーが、当社が運営するポータルサイトを通じてインターネット経由で流入するケースがより増えてきております。また、テクノロジーの進化により、駐車場の管理・運営方法も変わってきており、駐車場業務のデジタル化が進んでおります。

ビジュアライゼーション事業においては、経済活動の正常化にともない、当社グループが提供する不動産画像に対する需要は回復してきております。さらに非対面での営業ツールとして、VR技術を用いたバーチャルショッップの開発・制作を行い、事業規模を拡大しております。

このような経営環境のもと将来的な収益力の強化を目的として、引き続き既存社員の育成や新規の営業人員の獲得に努め、新規案件の獲得のための積極的なアプローチを行えるような営業体制の強化に注力するとともに、ベトナム子会社（AZOOM VIETNAM INC. 及びCGWORKS VIETNAM INC.）でのシステム開発・グラフィックデータ制作の体制を強化するための投資やリモート環境等の制約に関わらず営業活動を継続できるようIT面での新たな技術の開発を引き続き行ってまいります。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は6,319,616千円（前年同期比28.5%増）、営業利益は1,155,771千円（前年同期比37.6%増）、経常利益は1,155,176千円（前年同期比37.8%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は760,600千円（前年同期比30.1%増）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

① 遊休資産活用事業

遊休資産活用事業セグメントは、当社がインターネット上で運営する月極駐車場のポータルサイト「CarParking」（以下、「カーパーキング」といいます）を経由して、駐車場の紹介を行う「月極駐車場紹介サービス」と、駐車場オーナーから空き駐車場を当社がマスターリース（一括借り上げ）し、月極駐車場としてユーザーにサブリース（貸し付け）を行う「月極駐車場サブリースサービス」を中心として事業を行っております。当中間連結会計期間においては、カーパーキングを通じたインターネット経由でのユーザーの流入増加を背景に、引き続き既存社員の営業力強化やITを活用した業務効率化の推進に努め、マスターリース台数及びサブリース台数のいずれも堅調に推移し、当中間連結会計期間における駐車場問い合わせ件数は183,793件となり、当中間連結会計期間末におけるマスターリース台数（受託台数）は31,806台、サブリース台数（稼働台数）は29,551台となりました。あわせて、株式会社鉄壁が提供する月極駐車場特化型の賃料保証サービスの契約件数も堅調に推移しております。また、顧客による貸し会議室やジム、スタジオ等のレンタルスペースの運営をサポートするWEB予約システム「スマート空間予約」においては、システムの新規導入室数が増加しており、カスタマイズ対応案件については、様々な業種の企業へ導入しております。加えて、株式会社ダイバースは人材紹介の事業を行っております。

その結果、当中間連結会計期間の売上高は6,206,408千円（前年同期比28.7%増）、セグメント利益は1,160,739千円（前年同期比37.7%増）となりました。

② ビジュアライゼーション事業

ビジュアライゼーション事業セグメントは、不動産の可能性をより視覚的に伝えることを可能にするため、3DCG技術等の専門的なスキルを活用し、建物や空間の利用方法及び完成イメージをグラフィックデータとして制作し、販売するとともに、VR技術を用いて顧客の要望に応じた空間デザインのサービスを提供しております。当中間連結会計期間においては、グラフィックデータ作成の発注元であるディスプレイ業者が、インバウンド需要の増加などの影響により、集客施設への設備投資に持ち直しの動きがみられることから、市場環境は堅調に推移しておりますが、VR案件の受注は減少いたしました。また、2024年3月にリリースした生成AIによるレンダリングサービス「MyRenderer（マイレンダラー）」の契約件数増加に向けたプロモーション活動に注力しました。

その結果、当中間連結会計期間の売上高は114,605千円（前年同期比12.9%増）、セグメント損失は4,645千円（前年同期はセグメント損失742千円）となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は4,877,500千円となり、前連結会計年度末に比べて509,486千円増加しております。その主な要因は、業績が堅調に推移したことに伴い現金及び預金が450,932千円増加したこと、月極駐車場の受託台数の増加に伴い前払費用が60,189千円増加したことによるものであります。固定資産は1,364,542千円となり、前連結会計年度末に比べて178,512千円増加となっております。以上の結果、総資産は前連結会計年度末に比べて687,998千円増加し、6,242,042千円となっております。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は1,465,407千円となり、前連結会計年度末に比べて63,185千円増加しております。その主な要因は、稼働台数及び株式会社鉄壁の賃料保証委託契約の増加に伴い月極駐車場サブリースユーザーからの前受収益が47,721千円、契約負債が16,757千円増加したことによるものであります。固定負債は414,581千円となり、前連結会計年度末に比べて12,054千円増加しております。その主な要因は、稼働台数の増加に伴い月極駐車場サブリースユーザーからの預り保証金が20,564千円増加したことによるものであります。以上の結果、負債合計は前連結会計年度末と比べて75,240千円増加し、1,879,989千円となっております。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は4,362,053千円となり、前連結会計年度末に比べて612,758千円増加しております。その主な要因は、親会社株主に帰属する中間純利益を760,600千円計上したことにより利益剰余金と同額増加したことによるものであり、自己資本比率は69.5%（前連結会計年度末は67.1%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は3,522,461千円となり、前連結会計年度末から450,932千円増加しました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において営業活動の結果獲得した資金は813,981千円（前年同期は546,030千円の収入）となりました。これは主に税金等調整前中間純利益1,155,176千円を計上したこと、法人税等の支払による支出380,942千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において投資活動の結果支出した資金は197,423千円（前年同期は135,220千円の支出）となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出152,390千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において財務活動の結果支出した資金は166,365千円（前年同期は116,765千円の支出）となりました。これは主に配当金の支払による支出147,695千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点の連結業績予想につきましては、2024年11月13日の「2024年9月期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,071,529	3,522,461
売掛金	147,686	160,025
仕掛品	2,550	3,991
販売用不動産	395,560	360,098
前払費用	708,577	768,767
その他	56,224	75,402
貸倒引当金	△14,115	△13,247
流動資産合計	4,368,014	4,877,500
固定資産		
有形固定資産	115,640	130,598
無形固定資産		
のれん	39,354	35,418
その他	383,185	474,783
無形固定資産合計	422,539	510,202
投資その他の資産		
差入保証金	276,507	307,351
その他	393,915	432,492
貸倒引当金	△22,573	△16,102
投資その他の資産合計	647,849	723,741
固定資産合計	1,186,029	1,364,542
資産合計	5,554,044	6,242,042
負債の部		
流動負債		
未払金	116,320	118,780
未払法人税等	379,933	410,946
前受収益	364,577	412,298
契約負債	118,017	134,774
賞与引当金	68,936	78,427
1年内返済予定の長期借入金	38,116	35,060
その他	316,320	275,119
流動負債合計	1,402,222	1,465,407
固定負債		
長期借入金	72,416	56,414
預り保証金	260,273	280,837
退職給付に係る負債	17,100	18,600
資産除去債務	52,737	58,729
固定負債合計	402,526	414,581
負債合計	1,804,749	1,879,989
純資産の部		
株主資本		
資本金	66,543	66,737
資本剰余金	792,259	792,453
利益剰余金	3,044,095	3,656,983
自己株式	△180,516	△180,516
株主資本合計	3,722,382	4,335,658
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	5,181	5,155
その他の包括利益累計額合計	5,181	5,155
新株予約権	19,523	20,143
非支配株主持分	2,208	1,095
純資産合計	3,749,295	4,362,053
負債純資産合計	5,554,044	6,242,042

（2）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2023年10月1日 至 2024年3月31日）	当中間連結会計期間 （自 2024年10月1日 至 2025年3月31日）
売上高	4,918,480	6,319,616
売上原価	2,869,438	3,700,154
売上総利益	2,049,042	2,619,462
販売費及び一般管理費	1,208,950	1,463,690
営業利益	840,092	1,155,771
営業外収益		
受取利息	27	1,638
その他	676	—
営業外収益合計	704	1,638
営業外費用		
支払利息	443	523
為替差損	2,194	1,621
その他	140	89
営業外費用合計	2,777	2,234
経常利益	838,018	1,155,176
税金等調整前中間純利益	838,018	1,155,176
法人税、住民税及び事業税	273,440	412,130
法人税等調整額	△19,450	△16,486
法人税等合計	253,990	395,643
中間純利益	584,027	759,532
非支配株主に帰属する中間純損失（△）	△665	△1,068
親会社株主に帰属する中間純利益	584,693	760,600

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2023年10月1日 至 2024年3月31日）	当中間連結会計期間 （自 2024年10月1日 至 2025年3月31日）
中間純利益	584,027	759,532
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△1,063	△25
その他の包括利益合計	△1,063	△25
中間包括利益	582,964	759,506
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	583,630	760,575
非支配株主に係る中間包括利益	△665	△1,068

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	838,018	1,155,176
減価償却費	58,917	80,054
のれん償却額	3,935	3,935
支払利息	443	523
売上債権の増減額 (△は増加)	△18,009	△12,339
販売用不動産の増減額 (△は増加)	△51,941	35,461
前払費用の増減額 (△は増加)	△56,598	△60,189
前受収益の増減額 (△は減少)	42,203	47,721
契約負債の増減額 (△は減少)	7,015	16,757
差入保証金の増減額 (△は増加)	△21,305	△30,843
預り保証金の増減額 (△は減少)	7,224	20,564
未払金の増減額 (△は減少)	5,478	2,459
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	2,156	△7,339
賞与引当金の増減額 (△は減少)	744	9,491
その他	20,296	△67,623
小計	838,577	1,193,808
利息及び配当金の受取額	27	1,638
利息の支払額	△443	△523
法人税等の支払額	△292,131	△380,942
営業活動によるキャッシュ・フロー	546,030	813,981
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△6,223	△26,514
無形固定資産の取得による支出	△122,355	△152,390
その他	△6,642	△18,519
投資活動によるキャッシュ・フロー	△135,220	△197,423
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	30,000	—
長期借入金の返済による支出	△30,102	△19,058
配当金の支払額	△117,952	△147,695
その他	1,289	388
財務活動によるキャッシュ・フロー	△116,765	△166,365
現金及び現金同等物に係る換算差額	△42	740
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	294,001	450,932
現金及び現金同等物の期首残高	2,095,936	3,071,529
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,389,938	3,522,461

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

Ⅰ 前中間連結会計期間（自 2023年10月1日 至 2024年3月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額（注） 1	中間連結財務諸表計上額（注） 2
	遊休資産活用事業	ビジュアルライゼーション事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,817,006	101,473	4,918,480	—	4,918,480
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,000	—	4,000	△4,000	—
計	4,821,006	101,473	4,922,480	△4,000	4,918,480
セグメント利益又は損失（△）	842,894	△742	842,151	△2,059	840,092

(注) 1 売上高の調整額はセグメント間取引高の消去額であり、セグメント利益の調整額はセグメント間取引消去に伴う調整額であります。

2 セグメント利益又は損失の合計は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

Ⅱ 当中間連結会計期間（自 2024年10月1日 至 2025年3月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額（注） 1	中間連結財務諸表計上額（注） 2
	遊休資産活用事業	ビジュアルライゼーション事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,205,011	114,605	6,319,616	—	6,319,616
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,397	—	1,397	△1,397	—
計	6,206,408	114,605	6,321,014	△1,397	6,319,616
セグメント利益又は損失（△）	1,160,739	△4,645	1,156,093	△321	1,155,771

(注) 1 売上高の調整額はセグメント間取引高の消去額であり、セグメント利益の調整額はセグメント間取引消去に伴う調整額であります。

2 セグメント利益又は損失の合計は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。